

復興構想委員会：第一回検討部会
基本理念提案骨子

2011年4月20日

竹 村 真 一

3. 11: 「根源的」 + 「普遍的」 + 「未然形」 の課題群

(文明論的) (東北だけでなく全国・世界共通) (後処理でなく予防減災)

3.11後; 克服すべき7つの「脆弱性」

- 1) 「変動帯」リスク(地震、津波)
- 2) 沿岸低地; 津波、洪水、海面上昇
～人口の50%、資産の75%が集中
- 3) 高密都市リスク、帰宅困難者
- 4) 集中型ライフライン(電力、水道)
- 5) エネルギー安全保障(石油、核)
- 6) 水平分業、グローバリズム
- 7) 超高齢社会



単なる「復旧」でなく
新たな文明観、国土認識、
都市設計の理念を提示すべし

東北に閉じた構想ではなく、
日本全体、地球社会への
モデル提示でなくてはならない
(そのフロンティアとしての東北)

東北の復興(特に福島)のため
大胆な「移転」「疎開」、
人口構造のリデザインも必要

100年前の都市デザイン、国土計画
の延長上に未来はない。

復興構想の基本コンセプト

コミュニティ・セキュリティの国家的再設計

それを担保する3つの柱:

“変動帯パラダイム”

目指すは「スマートシティ」ではない。
そこには“生きた地球”が入っていない

日の丸“太陽経済”都市モデル
自立分散＋多様性こそが担保

“人間力、融通力”

震災で日本人の何かが開いた。
それを「閉ざす」復興ではいけない

CSC緊急整備＋減災文化デザイン
(コミュニティ・セキュリティセンター)

“いのちの安全保障装置”
としての住宅・都市設計

「浮体」モデル～変動帯＋海洋文明
(住居、都市、発電施設、水田・・・)

“生命産業”としての農林水産業
～1次産業のブロードバンド化

大移動・交流時代、新「参勤交代」?
～疎開農業、就業融通、修学旅行